

国管理4空港懇談会提言書(概要版)



日本の未来は ここから始まる・・・
～世界に羽ばたく 北海道の魅力～

平成28年8月

国 管 理 4 空 港 懇 談 会
(千歳市、苫小牧市、稚内市、釧路市、函館市)

日本の未来は ここから始まる・・・ ～世界に羽ばたく 北海道の魅力～

はじめに

道内空港の民間委託にあたっては、運営主体が国から民間に変わることによるリスクを回避するとともに、民間の知恵と資金を活用することにより、民間委託の効果を最大化し、北海道内の観光や産業の振興を図り、将来に亘り北海道経済の発展を揺るぎないものとする必要がある。

このため、道内空港の民間委託に関する課題や効果を整理したうえで、北海道や各地域の発展のために空港の民間委託をどのように活用すべきか、さらに、どのような姿を目指すべきかを検討し、次のとおり取りまとめた。

(P8) 北海道における訪日外国人旅行者数の具体的目標(2050年(仮定))

複数空港の一括民間委託によって北海道全体が発展するためには、観光客などの増加によって、道内各空港の利用促進を図る必要がある。

このため、国の成長戦略を踏まえた訪日外国人旅行者の受入目標を設定し、行政や経済界がSPCと連携して達成に努め、北海道が日本経済を牽引する役割を担うべきである。

2050年(委託期間を30年とした場合)

道内訪日外国人旅行者数

1000万人

道内訪日外国人旅行消費額

2兆5千億円

北海道が日本経済
発展を牽引！

日本の未来は ここから始まる・・・ ～世界に羽ばたく 北海道の魅力～

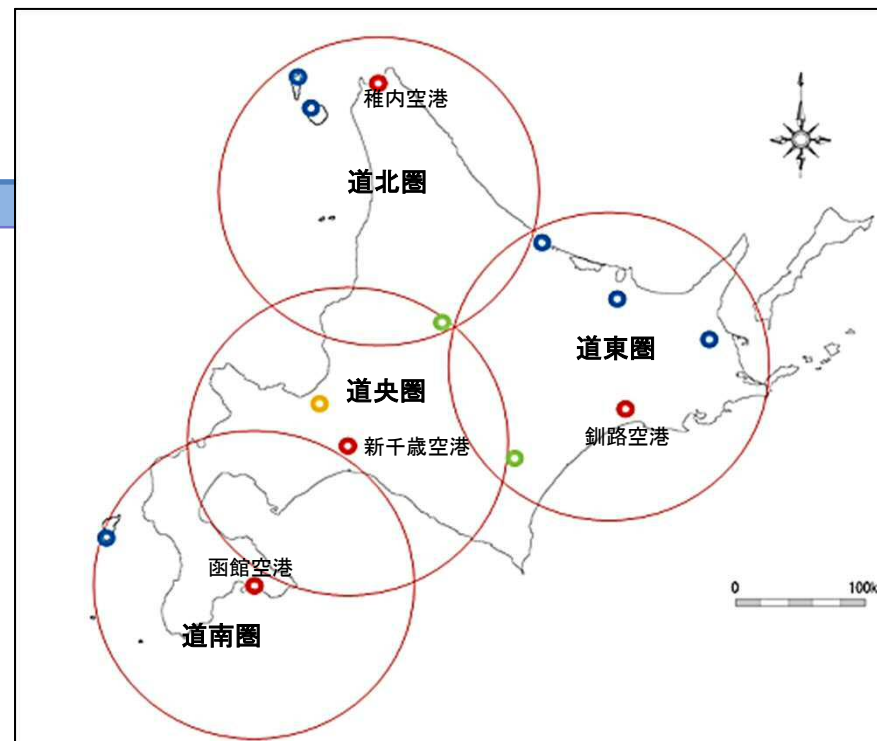
(P11) 国管理4空港が目指すべき将来像

○4つの圏域

- ・ 道内国管理4空港を中心とした圏域を設定し、広域観光周遊ルートなどで、新たな需要を創出。
- ・ 新千歳空港は、北海道の基幹空港として、北海道全体を牽引。
- ・ 新千歳空港以外の道内空港においても利活用を増加。
- ・ 4圏域に所在または近接する市管理空港及び道管理空港と相互補完し、効果の更なる拡大を図る。

①新千歳空港： 道央圏 ②稚内空港： 道北圏

③釧路空港： 道東圏 ④函館空港： 道南圏



(P14) 4 SPCに期待すること

- ◎道内複数空港の民間委託においては、空港運営のみならず、北海道の観光振興などへの貢献や、各空港が抱える様々な課題への対応などが必要である。
- ◎そのためSPCには、広範なノウハウや強い対応力を期待するものであり、また北海道経済発展のため、道内経済界や主要企業などの参画や協力を検討することが重要である。

(1) 適切な空港運営（対策に関する水準維持・継続、懸念への対応）

①安定的な経営

経営の健全性を確保し、安定的で持続的成長を実現。など

②安全・安心対策の実施

空港運営における安全性の確保は最優先事項

③災害発生時の防災拠点としての役割

空港は重要な防災拠点であり、災害発生時等においては、国や自治体に協力し対応すること

(2) 発展のための取組

①航空ネットワークの充実・強化

道内空港の民間委託は手段であり、観光振興を通じて空港活性化を図ることが目的。広域観光周遊ルートを活用するなど、航空ネットワークの充実・強化を進め、北海道全体にその効果が及ぶよう取り組む必要がある。

②空港基本施設や空港機能施設の機能強化の実施

増加する旅客等の受入に必要な滑走路等の空港基本施設やターミナルビル等の空港機能施設の機能強化を実施すること。

③外国人旅行者などの受入態勢の強化

グランドハンドリング（地上支援業務）の体制を強化すること。

④航空利用者の受入環境の整備

二次交通の輸送能力や利便性向上に努めること。

⑤貨物取扱量の増加

経済波及効果も高いことから、今後とも貨物取扱量の増加に努めること。

⑥空港及び空港周辺沿道等の景観整備

来道者へのおもてなしとして、景観整備に努めること。

(3) 地域との共生

① 空港所在地域との共生

空港は、周辺地域住民の理解のもと運営されている。
空港周辺環境対策などは、これまで実施されている水準以上とすること。など

② 空港関係者の雇用の確保

各空港の従事者に対しては、民間委託の際には、円滑に雇用を継承し、民間委託後も雇用を継続すること。など

③ 地元企業等との良好な関係継承

地元経済界との良好な関係を継承し、円滑な空港運営に努めること。

④ 地元自治体との連携・協力

自治体が行なう空港との共存共栄に関する施策に対し、連携・協力すること。

(4) 各空港における固有の課題等への対応

各空港における固有の課題等に関しては、その解決に向け、誠実に対応すること。

(P18) 5 北海道に対する要望

- (1) 外国人来道者の受入目標の設定と、その達成に向けた体制づくり
訪日外国人旅行者の受入目標などのビジョンを示し、その目標達成のプロセスを示すこと。
- (2) 道内空港の一括民間委託に関する必要性
道内空港の一括民間委託の枠組みとその必要性を明確に示すこと。
- (3) 民間委託とならない空港への対応
航空は、地域住民の生活上重要な交通手段としての役割を果たしていることから、設置管理者によって存続し、活性化を図ること。
- (4) 北海道発の提案の取りまとめ
地域の声を聞くことはもとより、道内空港の役割やあり方など、ビジョンやプロセスを明確に示すこと。
- (5) 北海道全体としての観光振興のための取組
「北海道における広域連携DMOとの連携」や「北海道版ゴールデンルートの創設」などにより、観光振興の取組を強化すること。

(P20) 6 国に対する要望

- (1) 空港運営を円滑に実施するための規制緩和等
より自由な空港運営を発展できるよう、SPCが規制緩和等を求めてきた場合、可能な限り対応すること。
- (2) インバウンド増加のためのCIQなど必要な体制整備
インバウンドの大幅な増加に伴う、出入国時におけるCIQなどに必要な体制を整えること。
- (3) 法定協議会を総括する組織の検討
複数空港の一括民間委託に当たり、情報共有等のため、各空港の法定協議会を総括する組織を設置が必要。
- (4) 災害発生時等の防災拠点としての役割
災害発生時などにおいては、SPCと協力し国民の安全を確保すること。
- (5) 確実なモニタリングの実施
SPCの安定的な経営や安全・安心対策の確実な実施に努めること。

～各空港における固有の課題等～

「新千歳空港」(P21)

- ① 新千歳空港の国際拠点空港化
- ② 新千歳空港の国際競争力向上
- ③ 空港周辺環境対策
- ④ 新千歳空港24時間運用への対応
- ⑤ 航空自衛隊千歳基地との共存共栄
- ⑥ 空港駐車場の容量不足
- ⑦ 空港及び空港周辺沿道等の景観整備
- ⑧ 地域との共生
- ⑨ 空港従事者の雇用環境の向上
- ⑩ 空港利用者増加のための課題



～各空港における固有の課題等～

「稚内空港」(P23)

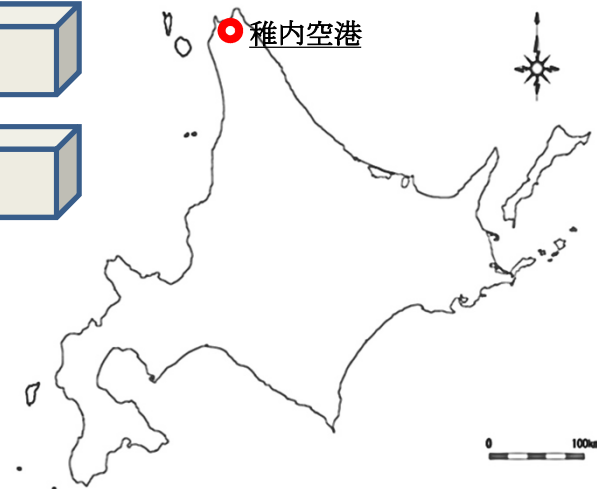
① 期間就航率の向上

② 外国人旅行者受け入れ態勢強化のための空港運用時間の延長及びC I Q体制の構築

③ 都市部との直行便の路線維持

④ 空港施設や空港機能施設の機能強化の実施

⑤ 二次交通の充実



～各空港における固有の課題等～

「釧路空港」(P24)

① 空港施設の機能強化

② 国際線受入態勢の強化

③ 航空ネットワークの充実・強化

④ 貨物取扱いの拡大



～各空港における固有の課題等～

「函館空港」(P25)

① 函館空港における航空ネットワークの充実強化

② 周辺地域への環境配慮

③ 雇用の承継

④ 地域の企業等との関係の承継

⑤ 地元自治体との連携・協力する運営

⑥ 施設整備

⑦ 二次交通の整備

